

各 位

山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3

電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



野草園のシンボル ミズバショウの群生

ミズバショウ(サトイモ科)

ミズバショウの白い花卉のようなものは、葉の変形したもので仏炎苞（ぶつえんほう）と呼ばれています。その中のトモロコシのような形をした黄色いものが花序（小花の集まり）です。ミズバショウは、水辺に咲く早春の花としてとても人気があります。葉は花の後に長さ80cm幅30cm程の大きさになることもあり、花の後に訪れると様子の違いに驚いてしまいます。

春の日差しに誘われるように、野草園のシンボルであるミズバショウがたくさん咲き始めました。園内中央にある広い湿地「ミズバショウの谷」には、一足先に満開を迎えたザゼンソウとこれから満開を迎えるミズバショウが一面に咲いています。野鳥のさえずりを聞きながら湿地の木道を歩くと、合わせて約2万株のミズバショウとザゼンソウに出会うことができます。また、湿地の周りの林の中には、リュウキンカやイワウチワが可憐な花を咲かせ、彩りを添えています。

オオヤマザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノなどの桜も、まもなく咲き始めます。春の野草園はたくさんの花が咲き乱れ、自然散策が楽しい季節になります。

4月後半から5月初めの予定

■新型コロナウイルス感染症対策のため、各イベント・観察会・ガイドウォーキングは中止しております。再開の場合は、ホームページ・SNS等でお知らせいたします。

- ◆山野草販売 土曜・日曜・祝日に、自然学習センター前で販売いたします
- ◆カフェやまぼうし 木曜・土曜・日曜・祝日に営業
カレー、ピザトースト、ハムサンド、バナナシェイク、コーヒー
- ◆山形まるごと市 5/3(日)～5/5(火) 午前10時～午後3時
料金所前で山野草等を販売します

■4/14(火)～6/14(日)は無休で開園します

●●● 4月後半に見られる花たち ●●●



カタクリ(ユリ科)

1枚の細長い葉から平たい葉になって、2枚の葉を出すようになると花を開きます。種子から開花まで7年～8年もかかると言われています。カタクリの花は淡紅紫色で、花びらのつけ根に濃紫色のW字形の模様があり、上の方へ大きくそり返ります。カタクリのでんぷんから採ったものが本物の片栗粉です。



リュウキンカ(キンポウゲ科)

金色の花が、立った茎に咲くので「立金花」と言われています。湿地や沼地に生える多年草で、葉はフキのようなまるい形をしています。黄色の花のように見えるのは、花弁状の萼片で、花弁はありません。「クリンソウの谷」に咲いています。



オキナグサ(キンポウゲ科)

花は花茎の先に1個つき、つり鐘形です。葉は白い毛でおおわれ、また、花弁状の萼片の外側にも白い毛が密生しているので白っぽくみえます。萼片は6個あり、内側は暗紫赤色です。花が終わった後、雌しべは長い羽毛状の果実の集まりになります。それを老人の白髪にたとえて、オキナグサ(翁草)と名付けられたと言われています。



オオバナノエンレイソウ (シュロソウ科)

北海道に多く自生し、大群落をつくるといわれています。大きな3枚の葉の上に可愛い白い花をつけます。萼に相当する外花被片は緑色で先が尖ります。花弁に相当する白い内花被片は先が円くなります。芽生えから開花まで、10～15年かかるといわれ、7～8年ほどかかるカタクリよりもずっと長くかかります。



ニリンソウ (キンポウゲ科)

ひとつの茎に2個の花をつけることが名の由来ですが、花は1個のことも、3個のこともあります。白色の花は花弁状の萼片で、5～7枚あります。葉は3つに深く裂けていて、淡白色の斑点があります。葉が毒草のウゼントリカブトにそっくりです。



キタコブシ(モクレン科)

冬には長い軟毛におおわれた花芽がたくさんついていました。春になると白い花を枝いっぱい咲かせます。花弁は6枚あり、花の下に小形の葉が1枚つきます。これが他のモクレン科の花との違いです。花芽や花を見ても名前の由来は分かりませんが、秋に実る果実を見るとよく分かります。果実が「握りこぶし」に似ているのです。



ユキツバキ(ツバキ科)

東北地方から北陸地方の日本海側の多雪地に咲く常緑低木です。高さは2mほどになりますが、多雪地帯に適応したタイプで、幹は地をはい、平たい半球形の樹形を作ります。ヤブツバキと比べると、葉と花弁は質が薄く、花糸は黄色です。咲き終わると、花全体が落ちてしまいます。



ヤマウグイスカグラ(スイカズラ科)

山野に普通に生え、よく分枝して高さ約2mになります。花はやや曲がった漏斗状で先端は5つに裂けます。葉は開花後に開き、長さ約5cmの楕円形です。初夏にグミに似た実が赤く熟し、とても甘いです。名は、古名ウグイスガクレの転訛とされています。



オオバクロモジ(クスノキ科)

若枝は緑色のすべすべした肌で、黒い斑点が多く、それが文字のように見えるのが、名前の由来とされています。雌雄異株で花は黄緑色です。春に葉が出るのと同じ頃に葉の脇から10数個集まって咲きます。葉や枝は噛むと芳香があり、高級な爪楊枝に使われたり、薬用にも使われます。



オクチョウジザクラ(バラ科)

太平洋側のチョウジザクラに対して、日本海側に分布するサクラです。花の萼筒が長く、少しふくらみます。横から見ると花弁と萼筒が丁字形をしているのが名前の由来です。花は最初は白っぽく、花の終わりには赤っぽくなります。園内ではジュウガツザクラに次いで早く咲きます。



オオヤマザクラ(バラ科)

東北地方や北海道に多く、それ以外の地域ではやや標高の高い山地に生えています。ヤマザクラよりも葉や花が大きいことが名前の由来です。赤っぽい色をした若葉が開くと同時に淡紅色の花を咲かせます。花色はヤマザクラより濃く、小花柄は無毛です。6～7月に果実をつけ、葉は夏には暗い緑色に変化します。



エドヒガン(バラ科)

ソメイヨシノより一足早く咲く、薄紅色のサクラです。萼の付け根がブツリと丸く膨らんでいるのが大きな特徴です。葉が伸展する前に花が咲き、ソメイヨシノの片親としてもよく知られています。長寿の種としても存在感があり、樹齢100年を超える大桜も多いようです。



ミヤマカスミザクラ(バラ科)

世界でここだけで見られるという珍しいサクラです。野草園内に自生するサクラで、花柄が枝分かれする等のミヤマザクラの特徴と、花弁の先に切れ目がある等のカスミザクラの特徴を併せ持つ新しい節間雑種です。花の色は白っぽく、清楚な感じがします。平成16年に職員が発見し、平成24年に命名されました。